

栄養教諭を中核とした食育推進事業事業報告書

都道府県名	奈良
推進地域名	大和郡山市 三宅町 特別支援学校

1. 事業推進の体制

県教育委員会 学校食育推進検討委員会 → 新規栄養教諭配置校 → 校内食育推進委員会



2. 具体的取組等について

テーマ1	学校における食育を充実させるための方策
指導者の資質向上を目的とした研修会の実施	
1 栄養教諭・学校栄養職員を対象にした研修会の開催 目的：栄養士の指導力向上 「食に関する指導における授業方法」 玉川大学教職大学院 教授 谷 和樹 「生きた教材としての学校給食を考える」 京都女子大学 教授 中山 玲子 「大和野菜を活用した伝統食について」 フードコーディネーター 松田 弘子	
2 教職員を対象に、各校種別の実践発表を組み入れた研修会の開催 目的：教職員の指導力向上 「子どもが自ら学びを深める食育推進」 上智大学 教授 奈須 正裕 「人間らしく生きるために一食で育む、からだ、脳、こころー」 アプリティセサモ 安賀 和代 「学校・園における食育実践発表」 大和郡山市立昭和幼稚園 奈良市立平城小学校 五條市立西吉野中学校 県立大淀高等学校 「体力向上と食生活について」 近畿大学 助教 明神 千穂 「農」から「食」へ熱いまなざしー栽培体験から見た食育の可能性ー 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター 上席研究員 室岡 順一 「実践報告・事業報告」 田原本町立田原本南小学校 学校栄養職員 池谷千鶴子 県立ろう学校 栄養教諭 荒木さと子	

3 管理職を対象にした研修会の開催

目的：管理職として食育推進への理解を深め、リーダーとしての資質向上
「食と農の体験が育てる生きる力ー学級担任だからできる食育実践ー」

武庫川女子大学 専任講師 藤本 勇二

「奈良県における児童生徒の食生活等実態調査報告」

奈良県教育委員会事務局 保健体育課

4 学校給食の充実を図る研修会の開催

目的：調理の携わる調理従者を対象に、地場産物・郷土料理を学校給食に活用し、学校給食の充実を図る。

「大和の伝統野菜を活用した学校給食に向く献立」

大和野菜・郷土料理についての講話

大和野菜・郷土料理を生かした学校給食献立の実習・試食

フードコーディネーター 松田 弘子



テーマ2 栄養教諭配置校を中心とした地域における食育推進を図るための方策

◎今年度新規に配置した学校を事業実践校に指定し、栄養教諭を中核に次の内容に取り組んだ。

食育推進体制の整備と充実

- ・ 食育推進の指導體制の整備及び活性化
- ・ 食育の全体計画の策定（学年別年間指導計画）

食育の充実・推進

- ・ 学級担任、教科担任と連携した、栄養教諭による食に関する指導実践の充実・学校・家庭・地域の連携を深め食育の重要性を図るため、食育推進専門家による食育推進研修会を実施した。
- ・ ゲストティーチャーを活用した栽培活動、調理実習を伴う体験学習の充実
- ・ 栽培収穫物を活用した調理実習等体験学習
- ・ 親子料理教室、ふれあい給食、地域活動をとおした家庭、地域連携の推進
- ・ 特別支援学校における食育の推進
- ・ 中学校における効果的な取組の検討

【具体的な取組事例】

1. 保護者、地域住民の参加を得て、食育研修会を実施し、家庭、地域に食育の重要性について啓発
参加者からは食育の大切さや日常の食生活の重要性が分かり、家庭においても食に力を入れたい等の感想が多く寄せられた。
2. 栄養教諭による指導
3. 中学校においてクラブ活動や委員会活動を中心に生徒が生き生き活動できる食育の実践
4. 特別支援学校における取組み

種別に応じ、少人数を対象にしたきめ細やかな取り組みを実施
子どもたちの生活に必要な活動を経験させることにより、社会への適応能力向上

【体験学習の様子】



農業者から指導を受けながら栽培活動に取り組む様子

【教職員対象の研修会の様子】



講師より実技を伴う講演を受け、教職員の理解促進につながった。

【親子料理教室の様子】



和食・洋食の朝食献立を全員で調理している。積極的に調理に取り組み、できあがった献立を試食し、バランスのとれた朝食のあり方を学んだ。参加者からは、「とても楽しかった。」「家でも実践したい」等前向きな感想が多く寄せられた。

調理をする楽しさや、自分の健康のための食事の重要性が理解できたようだ。

【栄養教諭による授業の様子】



栄養教諭の専門性を生かして毎日の食生活と健康との関連性について、子どもたちの発達段階に応じた、きめ細かな指導により、子どもたちはよりよい食生活を実践する意欲を高めている。このことは、保護者へも情報発信し、家庭における理解及び実践につなげていくよう啓発している。

テーマ3 健康増進を図る食育を充実させる方策

奈良県の児童生徒における朝食摂取状況・睡眠時間・体力等に係わる課題を食育を通して生活習慣の改善や健康の増進を図るために各校で課題に応じた取り組みを実践している。

奈良県の児童生徒が食に関しての基礎知識を身につけることを目的に、県内すべての小学校・中学校に食育DVD教材を配布し、より効果的な授業の実践等を推進する。

また、指導者である教職員が指導に当たっての基礎知識をえるために栄養教諭を中心にワーキングを重ねながら、食育DVD教材活用に向けた指導資料集を作成・配布した。

食育DVD教材 指導資料集



奈良県教育委員会

食育教材のテーマ

- ・朝ごはんちゃんと食べた
- ・つくってみよう朝ごはん
- ・手ばかり栄養法
- ・つくってみよう奈良の伝統食一大和芋ぼたー
- ・おやつを食べ方を考えよう
- ・食べたものはどうなるの？
- ・感謝の気持ちを伝えよう。

資料編

- ・郷土料理
- ・大和野菜
- ・伝統食の由来
- ・おやつエネルギー
- ・油、砂糖、エネルギーについて
- ・食に起因する生活習慣病について
- ・消化と吸収
- ・排便の重要性
- ・学校給食の成り立ち
- ・食材の生産にかかわる人たち

・食育DVD教材及び指導資料集を配布するに当たっては、研修会の機会を活用しながら、活用方法等説明し、各学校等での積極的な活用を推進する。

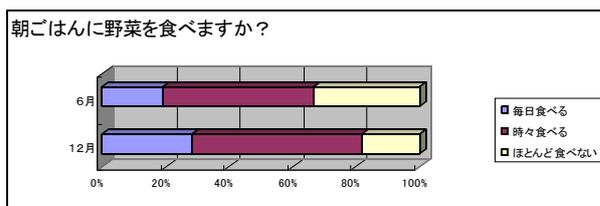
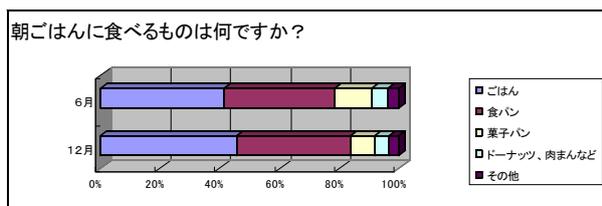
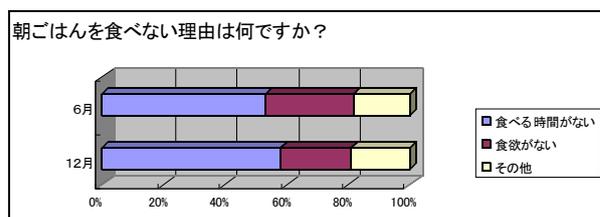
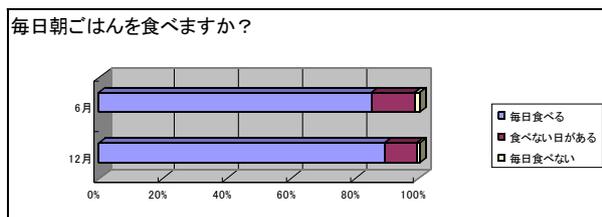
数字で変化のあった事項について

- ・学校給食の地場産物の活用状況の上昇 平成20年度18.0%→平成21年度23.6%
- ・夏期休業中開催の食育研修会への参加者(のべ数)
平成21年度385名 →平成22年度431名

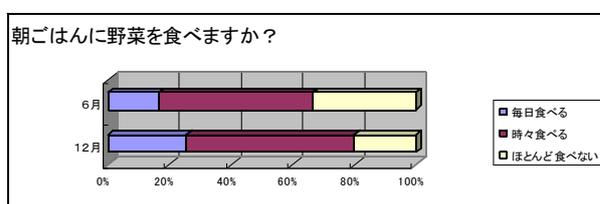
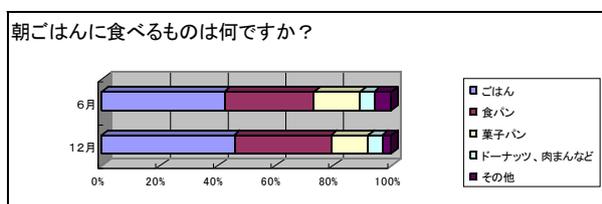
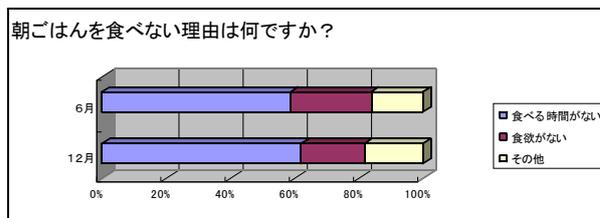
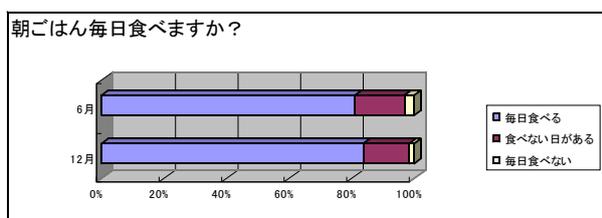
実践校でのアンケート結果

食生活等実態調査結果：朝食に関する調査の抜粋 対象：実践校2校 6・12月実施

小学校5年生の結果



中学校2年生の結果



各調査項目において、小学校・中学校とも食育に取り組むことにより実態の改善が見られた。朝ごはんの内容については「バランスよく食べることの大切さ」を子どもたちだけでなく朝食を用意する保護者・家庭への啓発により内容の充実を図っていかねばならない。

今後は、この取り組みが継続し、定着するよう学級担任等とも連携し図っていききたい。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

県教育委員会における取り組み

- ・教職員の資質向上に向けた研修会では、それぞれの立場における役割、実践等について具体的に研修することができ今後の取り組みの参考になった。
- ・食育教材を作成配布することで、指導内容の標準化が図られた。また、指導者の食と健康の関連や学校給食への理解を深めることができた。

実践校における食育推進事業への取り組み

- ・実践校に食育推進事業費を予算化することにより、各校の取り組みの充実を図ることができた。
- また、食育推進研修会を開催したり、栄養教諭による食に関する指導が充実することで、教職員の

共通理解が進み、全教職員の意識の向上が図られ、担任教諭による食に関する指導も回数、内容とも充実してきた。

・子どもたちが親子料理教室や栽培体験学習を通じて、食への興味・関心が高まり、食育は楽しい、食べることは楽しい、さらに作ることはとても楽しいなど変容するとともに保護者の協力も得られやすくなった。

・中学校における体験学習

親子料理教室への参加者から次期開催を期待されるなど、子どもたちの食への興味関心が高まった。

家庭ではなかなか実践できない親子の活動ができたこと、保護者からも好評を得た。

・給食センターを中心にした食育の取り組み

夏期休業中に給食センターにおいて、食育推進研修会にあわせて施設見学を実施。学校給食センターを中心に発信することにより、給食への理解を深め、受配校すべてに共通理解を持って、食育取り組む姿勢が整ってきた。給食センターに勤務する栄養教諭は、学校に直接指導する機会には時間的に制約があるが、情報発信の中心となり、市内全体の学校に共通理解を図ることができるという利点がある。今後も積極的に学校給食を教材とした情報提供を行い、各学校における食育の取り組みを充実させていきたい。

・特別支援学校での取り組み

・実践校において

種別に応じ、少人数を対象にしたきめ細やかな取り組みが実施できた。

子どもたちの生活に必要な活動を経験させることにより、社会への適応能力を高めることができた。

栄養教諭の立場や専門性が教職員に広く認識された。

・県立特別支援学校において

教職員・保護者対象に講師による食育推進研修会で講演会を開催した。

各講師により各支援学校の障害の種別に応じた内容で食育の重要性、規則的な食習慣の育成の重要性、障害に応じた対応策等を講義いただき、食育に対する理解を促進することができた。

また、教職員の理解が深まり、子どもの障害や発達段階に応じた、食環境の改善や、食に関する指導の充実につながった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

・新たな取り組みの開拓や系統的・継続的な取り組みの重要性について引き続き啓発していきたい。

・学校における食育の取り組みは徐々に充実し、朝食欠食率の改善等が見られるようになった。

今後は、朝食内容の充実など、家庭・地域と連携した取り組みを重点的に推進し、さらなる定着を図っていきたい。

・学習指導要領の改訂に伴い、授業時間数の確保が難しくなっている。このため、教科と関連づけた食に関する指導を充実するために、全体計画の見直し、年間計画への位置づけなど教職員のさらなる理解が必要と考える。

・事業で取り組んできた内容を同じレベルで継続的に実施するには、費用の裏付けが必要とされる。